

第4回おおさかプラスチック対策推進ネットワーク会議 議事概要

日 時：令和2年9月21日（金）10:00～12:30

場 所：大阪府咲洲庁舎 41階 共用会議室 10

出席者：出席者名簿のとおり（一部の方はウェブ参加）

概 要

1. 開 会

2. 議 題

（1）プラスチック対策の最新の取組について

① 株式会社/一般社団法人ピリカ（資料1-1） 小寫代表

事業概要（ごみ拾い SNS「ピリカ」、ポイ捨て調査「タカノメ」、マイクロプラ調査「アルバトロス」等）、ドローン調査の可能性と課題、人工芝の流出実態と対策などについて紹介。

<質疑応答>

（原田准教授）

・スライド 28 の「流出量＝使用量×流出リスク」の考え方は大事。公共工事の看板に取り付けられている怪我防止用のスポンジや長期間放置されているカラーコーンがボロボロになっているのを見かけるが、公共工事でプラスチック流出防止の配慮事例はないか。

→（ピリカ）

工事現場の周りをよく見かけるのは土嚢袋やカラーコーン。割れているのをよく見るので丈夫なものに替えていくことが必要。行政の指示かどうかわからないが、最近、工事現場の人がよく掃除しているのを見かける。こういうことを仕様書に盛り込む等、自治体から業者のより良い行動を促していくような取組が大事。

（原田准教授）

・私も参加している NPO でも国土交通省にそのような環境配慮を仕様書に入れてほしいとずっと言っているが実現していない。長野県では、公共工事のカラーコーンに木を活用している事例もあり、大阪でも活用してもらいたい。

（花田教授）

・仕様書に書くのは大変重要。大阪府は、グリーン調達に熱心に取り組んでいることもあり、ごみをなるべく出さないような 3R の取組をイベントの後援名義承認要件に入れるなどが効果的と考える。

② ネスレ日本株式会社（資料1-2） 阿部室長

企業ビジョン（すべての包装材料を埋立て処分、あるいはゴミとして廃棄させない）やコミットメント（2025年までに包装材料を100%リサイクル可能あるいはリユース可能にする等）、人気のマンガ（宇宙兄弟）やモデル（長谷川ミラ）、行政（神戸市）等と連携した消費者コミュニケーション等について紹介。

<質疑応答>

（原田准教授）

- ・神戸市と連携した空きパッケージの回収について、神戸市のようなポイント付与の仕組みを持っていない自治体でもこのような取組を一緒に行うことが可能なのか。

→（ネスレ日本）

各企業は、環境問題の解決に貢献すべきという想いは一緒だが、ライバル企業が組むのは難しいため、行政が間に入ると潤滑油となり連携できるようになる。

→（日本チェーンストア協会関西支部）

スーパー業界も同業他社と一緒に取り組むことは可能。また、自治体も独自のポイント制度を持てばイベント等で活用できる。

（原田准教授）

- ・神戸市との取組は、収集運搬は誰が実施したのか。

→（ネスレ日本）

参加するステークホルダーみんなの責任でやったと思っている。

（花田教授）

- ・良い取組だが回収コストがかかるのではないか。コンビニ等では同じような取組はあるか。

→（日本フランチャイズチェーン協会）

セブンイレブンがペットボトルの店頭回収を実施している。ただし、コストや店舗の負担に課題があると聞いている。

(2) 最終とりまとめ（案）について（資料2）

- 事務局が最終とりまとめ案について、説明。
- 原田准教授が関西広域連合「海ごみ発生源対策部会」の報告について、参考資料3を用いて説明。

<意見交換>

（原田准教授）

- ・行政の役割は、①ステークホルダー間の潤滑油、②新しい取組への支援、③法・条例等による規制、の3つと考える。

国がレジ袋を有料化したことでマイバッグ持参率が8割になるなど、行政には強い権限がある。規制やデポジット制度の仕組みを検討していることを表明すれば、民間企業も行

動がとりやすいので、国に先んじた取組を期待する。また、関西にはペットボトルのボトル to ボトルのリサイクラーがないので、誘致することも重要。

(花田教授)

- ・環境対策は府県内で収まるものではないので、関西広域連合で実施すべき。

(日本チェーンストア協会関西支部)

- ・レジ袋有料化は、自治体ごとまたは企業ごとに先行実施したものの、売上げが下がり、止めるところも一部あったが、ようやく法制化された。レジ袋の辞退率は多いところで8割になったが、これ以上に辞退率を上げることは工夫をしなければ難しいと思う。次はストローなどその他のプラスチック製品だが、新しい素材の導入を考えている企業もあり、成功すれば他社も先行事例に続いて取組を進めていけばと思う。

(日本フランチャイズチェーン協会)

- ・レジ袋有料化後の7～8月のコンビニでのレジ袋辞退率は75%に達している。ただし、バイオマス25%以上配合したものは、無料配布可能だが、地球環境に良いのかという面で混乱を生じており、利用客への理解を進めていかなければならない。また、コロナ感染防止のためにレジ袋を買いたいという利用客もいるため、商品自体に取手を付けるなどレジ袋を使わない工夫を模索している。

(原田准教授)

- ・エコバッグを介してコロナに感染することはないと考えている。行政から信用できる情報を出すことが重要。

(花田教授)

- ・レジ袋については、バイオマス配合割合を確認することが難しいという問題もある。

(全国清涼飲料連合会)

- ・取組を進めていくためには行政との連携が不可欠と考えている。東京は8月7日に「ボトル to ボトルリサイクル推進プロジェクト」を立ち上げた。ボトル to ボトルリサイクルを水平リサイクルのメインとして位置付けている。大阪の行政にも、適切な分別回収を促す大胆な取組やポイ捨て防止条例の制定など、強化をお願いしたい。

(ごみゼロネット大阪)

- ・2025年大阪・関西万博でごみゼロの取組を入れてほしい。2015年ミラノ万博では、ゼロウェイストを掲げ、リユース可能な陶磁器の使用、給水スポットの設置、食品廃棄物の場内での堆肥化等を実施した。万博ごみゼロに向けて産官学が連携した取組を行ってほしい。

(花田教授)

- ・ミラノ万博は食がメインテーマであった。ヨーロッパではごみを出さない、というサーキュラーエコノミーの考え方がある。大阪・関西万博でも大阪らしい打ち出しを考えてほしい。

(ごみゼロネット大阪)

- ・国の審議会では製品プラスチックと容器包装プラスチックの一括回収が議論されている。府民にとって大きな問題なので、情報発信が必要。

(花田教授)

- ・最終とりまとめ案の中で、ボトル to ボトルリサイクル推進には、ガラスびんとの混合回収が良くないと説明があったが、ガラスびんが割れないようにペットボトルをクッションにする考え方もあるようなので、効果的な回収方法についての発信が重要。

(大阪市)

- ・コロナの影響でごみの排出状況に変化がある。事業系ごみが減り、家庭系ごみが増えているが、特にプラスチックが増えている。最終とりまとめは、取組事例集として非常に良いものだと思う。この会議に参加していない市町村や企業、団体でも取り組めるところがたくさんあるのではないかと思うので、広く浸透していくようお願いしたい。

→ (大阪府)

本会議では、様々な取組事例を紹介いただき、貴重なご意見等もたくさんいただいた。ホームページや色々なチャンネル・場面を通じてご活用いただけるように発信していく。

→ (花田教授)

プラットフォームのようにして今後も色々な事例を入れていけるようにすればよいのではないか。

(堺市)

- ・プラスチックをなるべく使わないライフスタイルを推奨する「プラスチックフリーチャレンジ」を実施し、マイバッグやマイボトルの利用促進に取り組んでいる。昨年度は、市内のスーパー11社、市民団体、市の3者で使い捨てプラスチックの削減に関する協定を締結しており、マイバッグキャンペーンは今後も実施していきたい。コロナの影響でマイボトル用の給水機の設置を進めているが、衛生面を気にする方が多く、対策が進まない面もある。

(吹田市)

- ・レジ袋削減の取組については、北摂7市3町で協議会を作ってこれまでやってきたところ、レジ袋辞退率は8割まで上がってきたが、残りの2割をどうしていくかを考えるのが行政の役割だと考える。市としても、ペットボトルがない自販機の設置を検討しており、本会議の意見もふまえて、協議会でもプラスチックの削減に取り組んでいきたい。

→ (花田教授)

協議会はレジ袋の削減からスタートしたが、その他のプラスチックにも広げていってもらいたい。

(羽曳野市)

- ・羽曳野市は田園地帯が多く、毎年、「大和川クリーン作戦」として、3支流につながって

いる水路のごみ清掃を実施している。今年はコロナの影響であまり清掃ができなかった。また、人工芝はマイクロプラスチック問題以外に、怪我をしやすいということも一般的に言われている。天然芝に比べて維持管理コストがかからないというメリットはあるが、どちらを選択するかは各自治体の方針かと思う。レジ袋の削減の行政の取組事項に「家庭や企業等で使われていないエコバッグを集め、小売店に提供」とあるが、スーパー等ではいろいろなエコバッグを販売しており、民業圧迫にならないか。

→ (大阪府)

店頭イベントでの啓発時に配布することを想定しており、修正したい。

(熊取町)

- ・本会議で紹介のあった取組等は手あたり次第やっている。町が主催する全イベントでリユース食器を使用する他、町及び教育委員会がイベントの後援名義を出す要件にプラスチックごみ3Rの取組の義務付けを追加する。また、今年度、キーホルダーにつけられるコンパクトなエコバッグを作成する予定で、ノベルティとして小中学校の卒業式や成人式で配布したいと考えている。

→ (花田教授)

かっこいいデザインで誰もが使いたくなるエコバッグを作してほしい。

(ピリカ)

- ・いろいろと調査をしたが、プラスチック対策には偏りがあると感じている。生活の中で注目されやすいレジ袋やペットボトル等しか取り組まれておらず、農業やスポーツなど、その他は一見目立っていないように感じる。今後は広範囲のステークホルダーを巻き込むように行政が目配せして行ってほしい。

(花田教授)

- ・本日は時間が限られた中で議論いただいていること、欠席されているメンバーもいることも踏まえ、最終とりまとめ案に対する意見は会議後にも受け付けてほしい。

→ (大阪府)

9月18日(金)までに意見を提出していただき、最終とりまとめを確定したい。

(3) その他

- ・本日の会議と9月18日までの意見を踏まえ、花田先生と原田先生にご確認いただき、最終とりまとめを確定して公表することとなった。